

講義コード
0011101-2
授業科目名
法学 A【ロ】
授業科目名（英字）
Law A【ロ】
時間割
後期 木曜日 5校時 L-3 3 1 後期 木曜日 5校時 L-6 1 1
対象年次及び学年
1 年次
担当教員
杉木 志帆
ナンバリングコード・水準
B2
ナンバリングコード・分野
JRS
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー(DP)
bcx
ナンバリングコード・提供部局
G
ナンバリングコード・対象学生
1
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応

0
ナンバリングコード・授業形態
Lx
ナンバリングコード・単位数
2

関連授業科目
履修推奨科目
学習時間
講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間＋事後学習 30時間）
授業の概要
日本国憲法を中心に、国際法との関わりにも触れながら講義を行います。授業では、次の3つのテーマを扱います。第一に、国内社会と国際社会における法の仕組みについてです（第2～4回）。第二に人権保障について（第5～12回）、第三に統治機構について扱います（第13～14回）。
授業の目的
日本国憲法について、国際社会とのかかわりも含めて重層的に学ぶことは、グローバル化が進む今日の社会において、ますます求められています。そのため、この授業は、受講生の皆さんに、日本国憲法と国際社会における法の仕組みを踏まえて、現実社会の仕組みを説明し、またそれを批判的に検討する能力を養っていただくことを目的とします。そこで、この授業では受講生の皆さんが、第一に、日本国憲法の全体像を把握できるようになること、第二に、日本国憲法と国際社会における法の仕組みを踏まえて、現実社会の問題をより深く理解し、論述できるようになることを目指します。
到達目標
1. 法学の基本的な考え方と、憲法に関する基礎知識およびそれに関連する国際法の知識について説明できるようになる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。
2. 習得した知識を踏まえて、具体的事例にどのように対処すべきかを考察し、自らの見解について論理的に記述ができるようになる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。
成績評価の方法
期末筆記試験（70%、到達目標1と2を評価）、小レポート（30%、到達目標2を評価）
成績評価の基準
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。

ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。
授業計画並びに授業及び学習の方法
◎授業計画 1. ガイダンスー法の学び方ー 2. 憲法の基本原理と国際社会① 3. 憲法の基本原理と国際社会② 4. 裁判・国際人権保障の仕組み 5. 法の下の平等① 6. 法の下の平等② 7. 精神的自由① 8. 精神的自由② 9. 経済的自由 10. 人身の自由 11. 社会権 12. 参政権・国務請求権 13. 統治機構① 14. 統治機構② 15. おわりに 16. 期末筆記試験 ◎授業及び学習の方法 授業は講義形式で行います。 主体的な学習の基本は、インプット（読書）とアウトプット（執筆・発言）です。受講生の皆さんには、知らないことを、信頼できる文献を通して自ら理解する能力をさらに向上させていただきたいので、事前学習として教科書・参考書等を読み、事後学習では授業内で説明する法学の方法論に則り、文章を書く練習をしてください。正確な（批判に耐えうる）思考は、執筆作業と自己または第三者による執筆物への批判とにより培われます。 講義の前後で各 1 ～ 2 時間を目安に、講義資料と教科書・参考書を参照しつつ、論述の練習をしてください。また、小レポート課題が出ましたら、毎週 1 ～ 2 時間を目安に、レポート作成の準備と執筆を行ってください。
教科書・参考書等
教科書：毛利透『グラフィック憲法入門』（新世社、第2版、2021年） 2,475円 参考書： 芹田健太郎ほか『ブリッジブック国際人権法』第2版（信山社、2017年） 竹下賢ほか編『入門法学——現代社会の羅針盤——』（晃洋書房、第5版、2018年） そのほかは、適宜、お示しします。
オフィスアワー
木曜日12:00～13:00（事前にメール等でご相談いただけると助かります）
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
この科目は基本的に対面授業を行います。1～数回程度、遠隔授業に変更する可能性があります。
参照ホームページ
メールアドレス
sugiki.shiho@kagawa-u.ac.jp
教員の実務経験との関連

特記事項

障がい等により本授業の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属学部・研究科の学務係（医学部・医学系研究科は学生係）又はバリアフリー支援室に事前に相談してください。